

教育長 殿

宮城県石巻北高等学校  
校長 小野寺 基好

令和7年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

「考える」ことをやめずに、「自分の答え」を出すこと。何度でも「挑戦」し続けて、よりよい答えを出せる生徒を育てる。 (1) 学習指導に当たって・・・社会で生きる学びを作る (2) 生徒指導に当たって・・・地域社会を担う市民として必要な資質の育成 (3) 地域からの学校への信頼を高めるために・・・地域とともに生徒を育てる (4) 教職員が安心して働ける環境を作るために・・・職務の基盤となるよりよい人生のために
--

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価 自己評価の適切さ	改善策の適切さ
		自己評価結果	改善の方策		
学習指導	① 総合学科・系列の特色を活かした教育課程の編成及び教育実践	B	総合学科の特色を活かすとともに、地域のニーズを意識した教育課程の編成を行った。 高大接続事業においては、本校1名・飯野川校3名が単位修得を成した。本校の特色の1つである「とらまい」活動と授業との横断的な学びを通じて、外部地域と連携できるような活動を模索していきたい。	B	B
	② 個別最適な学びの指導体制の構築	B	欠点者指導の変更については、都度の情報共有・確認を行い、滞りなく処理することができた。また、生徒状況に応じて遠隔授業を実施し、うち1名は年度内での教室復帰につなげることができた。 様々な特性を持つ生徒への授業内外における対応が課題である。関係各署とも連携し、具体的方策を考えていきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・飯野川校の個別指導方法を本校でも参考にして努めてほしい。 ・時間と予算の限りがある中での個別指導は評価できる。外部にもっと発信してほしい。				
生徒指導	① 話を聴く態度	B	集会やホームルームでの日常的な呼びかけ。	B	B
	② 服装・頭髪	C	服装頭髪指導での改善の徹底や日常的な呼びかけ、指導の継続。	B	B
	③ いじめ防止	B	定期的なアンケートの実施。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・課題解決の一方法として、小グループ分けし、課題抽出し、解決策を協議し、全体会議で発表し、情報の共有化を図る。 ・話を聴く態度、服装頭髪、いじめ防止など、小学校、中学校まで戻って分析する必要がある。				
進路指導	① 保護者や担任に、進路指導に有効活用できる情報を提供し、その内容について共通理解できる環境づくりを行う	B	保護者ガイダンス等を実施し情報提供を行った。また、3年次を中心に進路情報を共有し、共通理解のもとで進路指導を進めた。	B	B
	② 生徒の進路実現に向けての学習環境の整備	B	現在使用している教材の活用方法の見直しと、生徒の実態にあった教材導入の検討を行った。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・卒業生に就職後の感想意見を聞き、生徒にその内容を伝える。 ・卒業生に来校してもらい、生徒との意見交換会を実施する。 ・iPadの使用も一部認めてはどうか。				
保健衛生	① 清掃活動の徹底	B	清掃監督及び各年次での廊下等の清掃指導により、おおむね達成できた。生徒は昨年より意欲的に取り組んだ。	B	B
	② 自己健康管理の意識を高める	B	全県的なインフルエンザの流行があったが、生徒の主体的な通院等で短期間で感染を収束できた。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・清潔さ、健康管理は生涯必要なこと。是非、習慣化させてほしい。 ・マスクは個別対応が原則だが、学校長に判断してもらいたい。				
企画	① 見出した課題を、教科の学習で得た知識と結び付けながら協働的にその解決策を考え、自己の進路選択の動機につなげられるような全体計画および年間指導計画を作成する	B	令和8年度の2年次の総探に向けて、1年次産社の「地域学」で石巻専修大学とのつながりをもつことができた。また、進路指導部と連携して、生徒の進路意識の向上を目指して、産社・総探における行事の見直しを検討しているところなので、それを反映させた産社・総探の年間指導計画を作成する。	B	B
	学校関係者評価委員会における意見	・学生時代にとれる資格を沢山取らせる（競争意識させる）。例えばフォークリフト、漢字検定、歴史検定等。 ・1年次の前半から指導。夏休みにも指導を取り入れてみては。			
総務	① 諸行事等の円滑な運営	B	従来の分担では人手が不足するので、係分担の見直しを継続していく。	B	B
	② 災害に対する防災教育の強化	B	中止となった訓練は、早急に代案の必要性を考え判断しなければならない。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・内容の充実を図るため、反省会を開催し、解決策を検討する。 ・中止はまずいので、短期間でも実行すべし。				
農場	① 学校農場の効果的な運用と安全管理及び衛生管理の徹底に努める。	C	故障や経年劣化している箇所を農場部内で共有し、事務室への相談や速やかな修理ができた。	B	B
	② 総合学科としての農場整備に努める。	B	P T A活動（ロードレースの豚汁提供）の補助や地域交流広場「とらまい」の商品供給及び売場設営、地元保育園・小学校との交流など例年の活動に加え、創立百周年に合わせたパンの開発と草花装飾も実施した。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・農場を全クラスに開放し、植物を栽培させ、生育過程を知り、生命の大切さを知る機会を得る。農学の本質を知る機会とする。 ・予算に限りがあるので、これでも良くやっているし、もっと外部に発信してほしい。				
情報化推進	① 校内のICT環境を向上	C	校内のICT化推進を目的として、教職員向け研修会の実施や授業・校務で活用可能なアプリの紹介を行った。また、校務支援システム等の案内や活用方法の共有を通して、ICT活用への理解促進と利便性向上を図った。一方で、教職員間の活用状況には差が見られるため、今後は個別支援や継続的な情報発信が課題である。	C	B
	② 生徒や教職員のデジタルリテラシーを向上	B	生徒および教職員のデジタルリテラシー向上を目的として、情報資産分類表等を職員室に掲示し、情報の適切な取扱いについて意識づけを行った。また、チェックリスト等を活用して周知を図り、情報セキュリティや情報モラルに関する理解の定着に努めた。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・A I 化を促進する社会に対応できるよう、基礎教育の徹底化を画してほしい。 ・デジタル化も良いが、重要なことは学校昇降口の廊下に張り出すようにしてほしい。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① ICT機器の有効活用	・令和8年度入学生から、学校で指定したタブレット端末（Chromebook）を各家庭で準備して使用することになる。今後は、更にICTを有効に活用した学習活動の充実を模索していく。 ・次年度1・2年次について、ベネッセの基礎力診断テストから、リクルートのスタディサプリに移行する。スタディサプリはコンテンツが充実しており、小学生からの学びなおし、探究学習、進路指導関連の検査やワークシート等の活用が期待される。各部署で連携して、最大限に活用できるように努めていく。
② 生徒主体の活動の充実	・「とらまい」の運営において、各系列がその特長を生かしながら生徒実行委員会を中心に企画運営を行い、お客様から好評をいただいた。今後は更に、教員側の補助を縮小し、生徒達が主体となって企画運営するような活動となるように展開する。 ・生徒会活動についても、生徒が自ら積極的に動く組織へと成長してきた。今後は、教員側の補助を更に縮小し、その支援と助言のみとするように努める。
③ 部活動の魅力化と再編	所属のみで活動していない生徒が増加し、多くの運動部で、団体競技が単独チームで出場できない状況となっている。一方で、現状に満足している生徒も多くいる。部活動の意義や在り方を再考し、生徒の社会性の育成と行った観点から部活動運営について模索していく。